

令和元年度 第3回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 令和元年11月11日(水)午後7:00～午後9:00

◆開催場所 東近江市市役所新館 313会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、大林恵子、大橋正徳、森下瑠美、金子泉美、園田由未子、
小島なぎさ、山本十三、井上文子、藤澤彰祐、小嶋一浩、奥田新悟
(欠席：小森秀樹、塚本喜久藏、辻薫)

事務局 まちづくり協働課 久保、西川、溝江
(傍聴者：0人)

◆議事

1 「共に考え、共に創る わがまち協働大賞」について

①最終選考

- ・採点・市民投票の結果報告
- ・賞の名称と受賞者の決定

②協賛と表彰式について

2 佐野自治会、池庄町自治会訪問の報告

◆会議録

【開会のあいさつ】

こんばんは。定刻になりましたのではじめさせていただきます。秋の良い時期がずっと過ぎてしまって、街中にマスクをしている人が多くなりました。自分も先日風邪をひきました。歳のせいか、なかなか治らなかったのですが、皆さまもどうぞお体にはお気を付けください。本日のテーマなのですが、大きくは協働大賞の最終選考と、この間、皆さまには自治会に行っていて御議論いただいていると。その経過の報告と、方向感を含めた議論を行っていただければと思います。今日も良い議論の場となりますように、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、深尾委員長の方からあいさつをお願いいたします。

【委員長あいさつ】

改めまして、皆様こんばんは。お忙しい中をありがとうございます。第3回目の委員会を開催させていただきます。この間、協働大賞のヒアリングと最終審査をお願いしておりました。今日はその最終調整と、今ありました、同時に市民投票や中学生選考を鋭意行っている、市民投票はメ切りましたので、その結果をベースに今日決めるということと、あと中学生選考も鋭意やっただいてまして、2つの中学校はもう審査していただきましたので、そういったことも含めまして今日はわがまち協働大賞に関して、結論を出すということ、そして先ほどもありましたように、2つの自治会に対して、関わりについて良い形で進んでいるということですので、それを情報共有して今後の見通しを皆さんがたと付けたいということですので。毎回のごとく盛りだくさんの内容ですので、決められることから決めていけたらと思いますのでよろしく願いいたします。

【協働大賞について】

*選考については、非公開

(事務局)

資料5を御覧ください。昨年度を参考に協賛一覧作っております。協賛の御協力、どうぞよろしくお願ひいたします。皆様のお手元にも、協賛依頼書をお配りしています。協賛については、まずはこの活動を知っていただくということを目的にしています。クーポン等普段作っていない所については、認定NPO法人まちづくりネット東近江さんが作って下さるので御連絡お願ひします。また、わくわくこらぼ村が12月にあるのですが、先生と、ヒアリングに行っていた方の方に一言コメントいただいて表彰していただけたらと思います。表彰式は12/7、アピアにて12時からの予定です。表彰式までは、受賞内容等については秘密でお願ひいたします。以上です。

(委員長)

はい。基本プレゼンターは皆様になっていますので、ぜひ当日も御都合つけていただきどうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局)

昨年、司会は委員にさせていただいて大変好評だったとのことで、ぜひ今年もお願ひしたいと思ひます。

(委員長)

はい、ありがとうございます。表彰式について、皆さんどうぞよろしくお願ひいたします。協賛の件は、まち全体で応援する空気を醸し出したいね、まちの皆が応援するという形で、販促的な形で良いのでとやっているの、無理のない範囲で御協力いただける方を募ってもらえればと思ひます。

では、協働大賞の件は以上にいたします。

【佐野自治会、池庄町自治会訪問の報告】

では、佐野自治会と池庄町自治会の報告をいただき、情報共有したいと思ひます。では、資料まとめていただいています。佐野自治会について御報告をお願ひいたします。

(委員)

10/19 行かせていただきました。参加者などは資料のとおりです。今回は、若い世代、40代くらいの評議員さん2名来られて、話をきかせていただきました。「評議員に選挙で選ばれたから今日ここにいるし、自治会に入ってみてすごく自治会のことを知れた。」「やってみないと分からない。」と2人とも仰ってました。今の若い世代は、自分達で何でも解決できるというイメージがあるので、楽しいというところを実際活動して感じてもらえないかという意見がありました。今後必要ということを考えることと、これは変えて行ってもいいかなということ、若い人にも参加してもらって自治会の活動を知る、そういう機会を作ると行けると良いのではないかという意見をいただきました。自治会の活動はたくさんあって、昔から継続していることも多いので、自治会事業を整理する必要もあるんじゃないかということ、必要なことと、負担なくできることを整理する、事業の洗い出しと仕分けをしていくということが必要かなということが挙げられていました。

資料の最後の方にも書いてあるとおり、事業の整理とアンケートをするというのが出ていま

した。課題ばかりを挙げるのではなく、やりたいことをたくさん出してもらおうようなアンケートの取り方をしてはどうかという意見もありました。自治会をやっているから、やっていることが見えない、知らないから参加しない。自治会の活動を発信する工夫を回覧板や自治会の掲示板だけでなく、紙ベース+ネットの活用が必要ではないかとの意見がありました。自治会の役員が若い人もできるような、ウェブでの参加とか、「参加しやすくすることも必要ではないか」と言われました。「いきなり自治会役員として関わるのではなく、楽しく関わることができたら役員になれるような仕組みにできないか」とも言われました。いろんな課題を、自分達の30、40代が、30、40年後、次に残しておきたくないと仰っていて、そのためには話し合いも事業の整理も必要だと仰っていたと思います。でも、若い人だけでなく70代の人の意見も大事なので。

佐野は大きい自治会で、小さいかたまりでしゃべることができるのと良いし、いろんな人とも話せるし、人材も発掘できるのではと、若い方が前向きに自治会のことをしゃべっていらっしゃるのがとても新鮮でした。とても堅いイメージできいていたので緊張して行ったのが、いろんな意見が出て楽しかったので、そこの温度差をどう埋めるか…若い世代とつくりあげてきた人の間を埋められるといいなと思いました。

(委員長)

何か補足があれば。

(委員)

委員がほぼ言ってくださったのですが、印象にあるのは「知らないだけ」。やりたくないわけではなく、「知らないから関わらない」と、お呼びしたお二人両方から聞かれたのです。「協力を要請されたら手伝うけど、ただ分からないし知らないからできないだけ」という感じだったので、「同じ在所の人達でこういうことを話し合う場があるのですか？」と尋ねたら意外と「ない」とのことだったので、そうなのか、と。「では、いつも会議で何を話し合われているのですか？」と尋ねると、「いつも審議事項を決めるだけ」とのことだったので、このようにざっくばらんに話せる機会は意外とお持ちではないんだと。どんどんお二人はアイデアを話されていて、防災をキーワードに、とか男の料理教室とか。特に自治会を続けていかないといけないけど負担はあるよね、と。自治会を止めるとかではなく。2人、お呼びしただけでこんなに話してくれる人が来てくれた。こういう機会さえあれば、自治会は面白いのではないかなと思いました。

(委員)

私は、年よりの方からの話ですが、委員が仰ったように新しい発想が生まれるのはすごいなと思いました。アンケートをとると、大体反対意見が出やすく「事業やめや」となるので、やめたいこと1つに対しやりたいこと2つ言ってもらおうなど。それを実現するには、年配者もこういう場に来てまずは聞き役に徹すると、素晴らしい考えが出てくるのではないかなと思いました。

(委員長)

他に行っていたいただいた皆さん方から、何かありますか。僕は単純にすごいなと思ってきいていました。それだけでも、皆さんが入った意味と言うか、こういう機会を作ったことによって思いなどが表出してきたと。普段考えておられるんでしょけれど、それを言語化できたということで、とても面白いと思ってきいていました。他にいかがでしょうか。案外こういうことを思っている、言う機会がないというのは明らかになりましたね。なので、こういう仕組みと

というか、場づくりのお手伝いを一緒にやれば、実は劇的に変わる可能性というか。これはもしかしたらどこの自治会も同じかもしれない。結構喋っているようで、議題以外のことをしゃべっていないのではないかということが良くわかりますね。特に事業の見直しなんかは議題にあがらない、やることをどうこなすかになると、このようなヒアリングの中ではたくさんヒントがありますね。すごいなど、やって良かったと思いました。

(委員)

ヒアリングの一週間前くらいに会合がありまして、その中で話をきくと、甲賀町なんかはお祭りがあってかなりそれで繋がっていると。能登川地区にもそういうところがあります。その地区でなぜそんなに、特に秋祭りはどこも廃れてしまって取り組んでない方も多中、なぜそれだけ人が集まって来るのかを訊ねたんです。すると、ベテランの方々が、一つの懇親会と言いますか、若い人の意見を聞く、場を作る。どうしたら神郷にお祭りの日なら参加できるのかと。すると「不参料がある」と。部活やいろんな事業があるので、不参料を取らないでほしいと。不参料を取らないようにして、意見をききながら事業を実施されたと。やはり、若い人の意見をきいていくことが大事だと思いました。

(委員長)

ありがとうございます。今、佐野さんのほうは、次の展開というか…もうちょっとこういう(若手の)人達としゃべれる層とか、われわれとして足がかり的な、とか。どういう感じになりそうですか。例えば、今みたいな…一つは、こういう場づくりみたいなのを、もう少しオープンな形にやって、いろんな自治会の悩んでいる人達に開いて行けば、…円卓会議みたいな形でやれるといいな、とっていたりとか。そういうイメージを来年度くらいにやれると。逆に今もう少し佐野で若い世代の人達が思っているような場づくりのお手伝いをしたりとか。外の目が入る方がやりやすいのであれば一緒にやって。かつ、ラウンドテーブルのプロジェクトをわれわれの先輩たちがやっていますので、ラウンドテーブルは計画上いままだ試行扱いになっていますので、ちゃんと位置づけるという議論をしなければいけないので、僕的是はちょうどいいなと思っているところが合って。そういうところに繋げていける設計にできればと。そういう場を作る、ラウンドテーブルなどの力を借りながら、場づくりを一緒にして行って、それを一つの知見として表現できれば、委員会として皆さんが関わっていただいた意味合いが良く出るなとは思いますが。そういうことが可能なのか、「これ以上踏み込むのは危険だ」という感じなのか。それによって変わって来るんですけども。

(委員)

危険かどうかは分かりませんが、…危険だったら嫌だなと思うのですが。私がやりたいと思うのは、組長が37名程とのことで、一堂に集めて、10人ずつくらいのWSをして、協働委員がファシリテーターで入って、この前の評議員さんが言ってくれたこと、自治会活動の整理を率直な意見でもらったらどうかと。選出方法は、場所ごとにいろいろで選挙だったりくじ引きだったりするそうなのですが。自治会の予備軍として組長さんがいるのかなというイメージだったので、そういう人達と話すのがいいのかなと。

(委員長)

そういうことができる雰囲気だといいかもしれないですね。

(委員)

今回、自治会長さんとか来て下さった方は、若い人の意見にもうんうん、と言う感じで。一

回目の雰囲気と違い過ぎて…。

(委員長)

違う形でやってみるというのも一つかもしれませんね。

(委員)

多分、一回目のメンバーでWSはかなり難しいかと…。なので、組長さんの方が若い人も入るのでよいかと。

(委員長)

ある意味で役員さん達を楽にすることに繋がるとは思います。知らないからこそ関わるところ、コミュニケーションを促進できる場所など、評議員さんと作戦会議と言うか、「われわれもこういうことできるかもしれないんですけど」というような話をもう少ししてみるとか。設えを。今回、かなり印象が変わりました。当然地域は多層なのですが。前回ヒアリングした方たちは、たちまちはその言い方しかできないけれども、少しそういうような展開が作れそうかなとは思いましたので、引き続き相談させてもらって、まちづくりとしてやれば良いなと思ってますが、いかがでしょうか。

(委員)

ラウンドテーブルとはどういうものですか。

(委員)

ラウンドテーブルとは、円卓会議といって、こういう形で話し合うのですが、会議は次第に沿って話し合うのですが、円卓会議は1つのテーマについて、利害関係者；ステークホルダーというのですが、ステークホルダーが集まって今どういう状況なのかというのを共有する場という感じで進めていきます。その中で課題がでてきたり、次こういうことしたいよね、こういうことができるのではないかと進めて行きます。

(委員長)

もともと前の委員会メンバーがそういう場所があるよね、課題を持った人たちのつぶやきを皆で聴き取って議論する場があればいいよねというところから、ラウンドテーブルをすることになって。沖縄でかなり先行的にされていて、実は皆さん私費で沖縄まで見に行き、「それだ！」という感じになり、今「まちのわ会議」という名前で継続してやっています。例えばその会議でやっていたのは、障がいがある人が「バス停がもっとこうだったらいいのに…ちょっと移してくれたら安全なのに…」でも、それは一人のつぶやきでしかない。それを、行政などいろいろな人がいる場で話し合うと、なぜそうなっているのか、問題点は何なのかが見えてくる。では、どうすればいいかを話し合っていくと、結果として解が見つかったりとか、代替案がでてきたりとか、皆の知恵やスキルを集めることで乗り越えて行こうよ、というような場をどう作るかということで、われわれの前身になっている計画のときのメンバーが、今もそれを続けてくださっているんですが、計画上それは「試行」となっていて。卒業したメンバーが試行という状態になっていて、ちょっと失礼な状態になっているなとも思っています。今のメンバーがラウンドテーブルに参加するというか、見に行ったり交流したほうが良いかなと。少し交流がないと、今、断絶と言うか…関わりがない状態なので。先輩委員の皆さんがやっておられるので、教えてもらうのも大事かなと。またそういう機会をつくりたいので。そういうチームと重なり合うと、また面白いことができると思いますので、来年度くらいまちのわ会議のメンバーともそういう会議をして設計をできればという感じですね。その前に皆さんと

交流できる機会が持てれば、と思います。

では、佐野の方は前に行きそうだなというか、印象が変わったところを手掛かりにできそうですし、他の自治会さんにも非常に参考になるなと思ってお聞きしていました。

次ですが、池庄町の記録・報告をいただいておりますので、こちらはメンバーがいないので事務局から説明をお願いします。

(事務局)

まず、Cチームと書いている方から報告します。

池庄町さんにつきましては、1回目に自治会長さん含め役員さんに話しをさせてもらって、これで2回目になりまして、ここからが部会に分かれてということになります。Cチームにつきましては、「活気に満ちたまちづくり」というテーマを掲げていらっしゃいまして、その中での具体的な事業としまして地域住民の交流として「わくわく交流会」というのを昨年度から実施されています。今年度既に1回目を8/25に終えていらっしゃいまして、反省会のようなイメージで9/14の会議をもたれました。こちらの交流会につきましては、参加者は17名ということでした。

ここにあるように反省ということできざまな意見がありまして、まだまだ広がりがないのかなど、組長さんの参加はあってもちょっと広がりが弱かったのかなという反省を言っておられるのと、高齢者向けのもので、体力測定とかストレッチなどされましたので、体験型のものが好評だったので今後も活かしていきたいという意見がでていました。参加者はメリハリがあつてよいのではないかと、ここまでお話いただきました。令和2年度の事業については2回予定を立てられていまして、9/27と11/14ということで、この時の会議で日まで、内容についてもおおまかな内容をやっていこうではないかと、お話で決められたところでした。そういった話の中で、※印にあるんですが、次年度事業の協議と合わせて自治会事業の見直しについて、こういう意見がございました。

やはり、自治会事業の見直しという事で、運営しやすい事業へ内容も変更していかないとアカンなど。運動会からグランドゴルフ、というような意見を仰る意見もありました。変えて行くにあたりストレスがあるので、必ず反対意見はあるので、そういう意見が半分程度であれば良いのではないかとといった御意見もありました。また、池庄町は高齢者が中心の人口なので、高齢者が地域を支えられるような仕組みづくり・体制づくりに変えて行かないといけないという意見がありまして、最後に自治会と言う単位で、生活でも顔を合わせるのもその難しさ、人が固定しているのとこのところで御意見がありました。この事業について意見を聞いていますと、毎年内容については随時変えて行けるような展開を試みておられるので、自由な意見の中で進められていく事業ですので、すごく重要な取組みと思いました。

(委員長)

ありがとうございました。では、他のチームもお願いします。

(委員)

Aチームに行かせていただきました。前回伺った時とは全然人が変わっていて、全然違う人達だったので自己紹介から初めて、前回より堅かったかな、という感じで始まりました。若い世代の増加策、空き家の活用ということで、前回より若い方がたくさん来られてまして、主に空き家の活用について話し合われました。池庄町自体に空き家が把握している中でも11軒くらいありまして、2軒は活用されていて、9軒が空き家です。でもその空き家をどのように活

用するかが中々見えないということ、所有者の思いが反映されていて、「売りたい」という人もいれば、思い入れがあるから持っておきたいけど今は住めない、管理がなかなかできていないなど。その管理できていない家がどんどん朽ちるのは自治会にとってどうなんだろう、課題やなど話し合われていました。前回から、Aチームの活動自体が初めてだったらしく、前回は空き家バンクの方に聴き取り調査などされ、空き家バンクにつながるというよね、など話し合われてましたが、なかなか所有者と空き家バンクをつなげるのが自治会では難しいのかなど、どういう風につながっていったらいいかなど話がでていました。最終的には所有者の意向を知ることが大事だろうなど、意向調査をこれから進めて行きたいと話しておられました。

(委員長)

はい、ありがとうございます。Aチームのテーマ自体は継続していくということで…

(事務局)

現在、市が空き家を調査して、空き家の所有者に対して「空き家バンクに登録しませんか」というような案内を出しているのですが、所有者からするといきなり言われても「ほっておいてくれ」という話になると思うのですが、そこをつなげるというか、それは自治会なのかなど。そこに役割があつて。おそらく、今は管理されてる空き家が多いのですが、管理されている方も高齢の人が多く、次の世代になるとほったらかしになると思うので、今のうちから。自治会として役割が果たせて、間をとりのつとつかどうか。うまく活用できるところや管理してもらえたら、地元にとっては一番いいのかなど、そんなことを想像しながら動きを進めているというところですよ。

(委員長)

なるほど。調査データが可視化できたり、単に行政調査ではなく、地元がデータとして把握して活用できるものにおとしこんだり、どう共有するかということがあるといいかもしれないですね。データをあげて終りではなく、ミスマッチもあるけれど、逆にそのデータを自分達の活動にどうつかうか考えることができると、非常に意味のあるデータになるという。空き家というのはどこの地域も抱えている問題ですよ。

私自身、東近江市の空き家対策の委員会ももたしてもらっていますが、結構ヘビーで本当に大変なんですよ。特定空き家というのですが、管理して無くて崩れ落ちそうな家で、地域から苦情があがるんですが基本私有物なので手が出せない。これ、次の台風が来たら崩れるぞみたいな話があつて、それが「じゃあ税金でどうにかするしかないか？」となってくると、それはもうもたないですよ。権力をもってやる前にはかなり手続きがあつて、本当に危険でもうどうしようもない状態にならないとできないので、そうではなくて、何か地域で、予防的なことを含めてやると、実はかなり楽し、本当に行政が権力をもってやろうとすると、地元もかなり手間をかけざるをえないというところもあるので、そういうことが表になると非常に面白いなと伺っていて思いました。10年後は生々しいので、20年後この家がどうなってるかをききとれば、ある程度見えてくると思うんですよ。「息子さん、帰ってきますかね」みたいなことを言うと、「いや、まあもう帰ってこんな」みたいなね。所有権まではいかないけどこの家が空くかどうか、未来予想図が作れるとすると、それを地域の人と共有するだけでも多分「ああーどうしよう」となると思う。空き家の所有者の意向確認だけでなく、今住んでいる人の20年後の未来予想みたいなのを、傷つけない形で調査できると。角が立たない形でそういうことが調査できると興味深いというか。そういうのが少し見えるとまちの未来がみえて、「半分

以上空き家になってしまうね」というようなことが見えると、そこから「仕組みを真剣に考えないといけないね」みたいに。単に行政に吸い出されるデータではなく、自治に使えるデータを作ればいいかみたいなことは、いろいろと、空き家問題についてやれるかもしれませんね。今後の計画の中に空き家の所有者の意向確認がありますが、そういう風に進んでいけばいいかなと思いました。他に、いかがでしょうか。

(委員)

意見と言うか、情報としてですが、先月友達が引越しをしたんですが、それが結構おもしろくて。僕の友達は保育士で、奥さんが美容師をしているんですが、美容院を開店しつつ、店舗兼住宅を探していた中で、テナントとして出されていた物件を、10年間賃貸の契約をしたうえでリノベーションしたのです。ありえないと思う人は、ありえないと感じると思うんです。自分のものではないものに、自分のお金をかけているという。リノベーションして10年間住む。その後はどうなるか分からないけど…という。実際家も見に行っただんですが、とてもステキになっていて。僕ら世代は持ち家を持つことにリスクを感じている人も確実にいるので、一つ新しい使い方というか、賃貸契約しつつ、リノベーションも住む人が負担するというのは、これからそういう手法もあるんだなと思いました。

(委員長)

かなり増えて来ているみたいですね。その期間で割り切ってやると。その間に関係性をつくって、上手いけば(借りる)伸ばしてもらえたりとか。それはまさしく仰るとおり、リノベでかなりオシャレな空間に変えたりとか、木造の空間や日本家屋というものの評価を含めて、若い世代は、結構そういう住み方というのを選んだり。34年、買ってしまっただけ縛られるよりも、これだけ家が余っているということを彼らは分かっていますから。そういう意味では、情報が一つ入ってくると、本当に空き家はリノベーションスクールなんかは実際にその空き家を実際に見てプランを立てて、可視化すると持ち主も「おお！俺の家がこんなになるのか」と実感できて、そういう空気や知恵が共有できると、もしかしたら動くかも、活用できるかもしれないとい、そういうことが交流できるとよいかももしれない。

(委員)

参加費をとってWSしてというところもありますね。その人は、10年経ったら実家の親が一人なので、戻るというのも視野に入れているので、返って期間があることが良いみたいで。おもしろいなど。

(委員)

都会のアパートでは、1階部分が全部ショップが入っていてそこを気楽に手伝うというのが、すごく人気が出てきていて。しーんとした中で少し活気が出てきていると言うのは、その地方版みたいな感じではおもしろいかなと思いますね。

(委員長)

若手の建築を学んでいる人達に聞いてやってみてもおもしろいし。いろいろなアイデアが今、動いている領域なので、かなり事例が出てきているので、そういうのを束ねていくと、それやりましょう、ということではなくて、そういう情報を共有するだけでも、そしてその上で調査を重ねて行くと。いろいろなことが場合によっては生まれてくるのではないのでしょうか。これについては、まだまだ議論できる素材だとは思いますが、継続的に、いろいろ協力いただいている部分が多分にありますので、継続的に今のことは皆さんからいただいたことをヒン

トにしながらい進めて行きたいと思ひます。今日は、皆さんと方向感を共有するということとどめておきたいと思ひます。ありがとうございます。

【事務連絡】

(事務局)

わくわくこらぼ村ということで、12月7日土曜日、10時から3時30分までとなっています。詳しい内容については、決まりましたらメールで皆様にご案内します。表彰式は12時予定となっていますので、その少し前くらいにアピアホールにお越しください。どうぞよろしくお願いいたします。そして、令和元年度、次回なんですけど、今の所年明けの2月下旬から3月上旬にかけて、4回目、今年度最後の予定をしています。

(事務局)

では、2月の最終週あたりで、26・27・28のいずれかで開催させていただきたいので、どうぞよろしくお願いいたします。

(委員長)

その他はいかがでしょうか。何かありますか。大丈夫でしょうか。はい、ありがとうございます。珍しく定刻に終わりました。帰りにはお気をつけて下さい。どうもありがとうございます。

(事務局)

深尾委員長ありがとうございます。寒くなりまして、体調にも気を付けてお過ごしいただければと思います。次回はこらぼ村ということで、御都合つけていただければありがたいと思ひます。どうもありがとうございます。